

立守にきたから、今の自分がいます

語り手 田中優衣（高校十四期生 国際関係学部四回生） 聞き手 木村香恋

—まず、私の自己紹介から始めます。高校三年、GLコース所属の木村香恋です。よろしくお願いします。

私は、立守のGL文系出身で今は立命館大学の国際関係学部四回生の田中優衣です。よろしくお願いします。

＊

中高生時代

—今大学四回生つてことは、高校生の時とかちょうどコロナが被ってた感じですか？

そうやね、高校時代がちょうどコロナの時やった。高一から高二になるちよつと前ぐらいにちょうどコロナみたいな感じでもう海外研修とか全部消し飛んだ感じ。

—海外研修も無くなったんですか？

そう、無くなった。私まじで海外に行きたかったし、留学したかったから海外研修がある学校つていうので立守選んだのに、それが無くなっためっちゃへこんでたんやけど、逆にオンラインでその時いっぱいイベントとかがあつて、例えば世界丸見えとか国際センターがやってるやつが急に充実してきた時期で、とにかくそれをいっぱいやりまくったかなあ。

—資料にホロコーストって書かれてると思うんですけど、これって留学に行かれたとかですか？

留学じゃないんやけど、ポーランドから留学生が自分らの代にきて、カール君とあとトーマスとマリつて子をGLで受け入れようつてなつて、そこでカール君がポーランド出身やからナチスとかのホロコーストの歴史をみんなで勉強しようみたいな？その時にシンドラーのリストつて、ホロコーストを描いた映画をみんなで見てカールとポーランドでナチスがどんな風になつてるかを話すみたいな授業があつて。それが高校生活のトップ一〇に入るぐらいすごい印象に残つてる授業で、その映画がめちゃめちゃリアルで、言葉選ばずに言うとはんまにグロかったんやんか。

普通に屋根裏に隠れてたユダヤの人が、兵隊の人にめっちゃ首根っこつかまれて逃げようとしてるみたいなシーン見て、「人つてこんな怖いんや」というか、世界でこんなことが起きてるのをなんで今まで知らなかったんやろうつて純粹に感じて、それですごいショックというか、もっと世界のことを知りたいなつていうのがあつた感じかな。

—だから国際関係学部に行かれたつてことなんですね？

なんかそれにはめっちゃいろんな理由があるんだけど、その中でも割と世界のことをもっと知らないといけなつて感じたのも理由として背景にある感じかな。

—その他の理由つて聞いてもいいですか？

単純に言うとか、コロナで自分らの代がずつと留学に行けなかったから、留学に行ける学部に行きたかったつていうのと、自分の中で広い視野を持てる人になりたかったつていうのがあつて、実際今は専攻を決めて一本のことを深くやつてるし。もちろんそれも大事やねんけど、まず

は広い視野で見たくなって思ったときに、国際関係学部は一回生の時に色々な授業を取ってから専攻を決められるのっていうのと、あとは別に専攻と違っても別のコースの授業を受けられるから、そういうところで視野を広げられるっていうのがあるかな。例えば、私は今政治学を専門にしているんやけど、政治以外にも経済とか環境の授業を受けたり、それこそジェンダーの授業を受けたりとか、そういうので視野を広められるかなって思ってた国際関係学部にしたって感じかな。

―紙にも書いてくださっていると思うんですけど、UCLってなんですか？

あーなんかUCLっていうのは、ロンドンの大学があるんやけど、このサマースクールがあつて、今年あんのかな？たまたま高一の時にUCLに行った一個上の先輩の話をGLの集会で聞いた時に「やば、かっこいい」みたいな思ってた。私なんかずっとロンドン行きたかったというか、ロンドンっていう場所に憧れてるから行きたいなみたいな感じで思ってたんやけど、コロナで全部なくなつて。

―え、辛いですね。それは辛すぎます。

そう、なくなつて。二十年史のアンケートにも書いたかもしれへんけど、マジで一日中泣いてて、自分の目標が崩れてったみたいな。めっちゃ泣いて泣きまくって、その時にたまたま当時の主任の先生がみんなの頑張りとかを書いているようなブログをやつて。そこのお問い合わせフォームがあつてんけど、お母さんにほんまにめっちゃ弱み言まくつたり相談してたから、「その先生やつたら分かってくれるんちゃう？」みたいなことを言われて。「もうきつい、もうまじで死にたい」「まじで何のために学校に来たかわからん」みたいな感じの病んでる文を送ったら「めっちゃ分かる」みたいな。「これまで頑張ってたことは自分以外に

も由谷先生とかみんな知ってるよ」って言ってくれて、「僕も同じような経験があつたけど、笑顔で前向いてたらまたチャンス来るし、みんなでコロナに負けへんように頑張ろう」みたいなこととかも書いてあつて。それで元氣もらつたし、勇氣出ているんなことやってみようって思えたって感じ。

―そんな経験があつたんですね。

そうそうそう。それきっかけでいろんなことに挑戦するっていう力もついたし、その時週七部活とかがコロナで家になつたっていうのがなくて、コロナで家になつて部活の練習とかそういうのに縛られへんくなつたおかげで、オンラインのプログラムとかに挑戦できたって感じかな。今やつてたら多分マジでパンクしてた(笑)結局コロナあつて良かったなっていうのはそこかな。

―まあやつぱりいい面も悪い面もありますよね。

―APのこと聞いてもいいですか？

いいよいいよ。

―まず、テーマは何にされてましたか？

テーマはざっくりいうと環境系で、琵琶湖のヨシっていう植物があつてそのヨシっていう植物は伐採しないと次のやつが生えてこうへんつてやつで。あとは琵琶湖の汚れとかを吸収して水を綺麗にするのに役立っているけど、それを伐採した後になかなか使われないっていうのが問題になつて、それをどういうふうにして利用のフェーズに移すかっていう研究をやつてましたね。

―なんでそのヨシに着目したんですか？

割と理由がいっぱいあつて、一個目がうちの親戚がそれこそヨシをそういうふうに使って、ヨシの簾とかを作るような卸の業者をしてい

て、ずっと昔から続いているようなのを今もやってるっていうので。二つ目が自分が滋賀に住んでて滋賀のこと全然知らんようになって思ったり、今もあるんかわからんけど SMAP For youth っていう、国際センター行ったらわかると思うんやけど、滋賀県の高校生とアメリカのミシガンの高校生が交流するっていうプログラムがあって、私それの一期生としてたまたま参加してたんやけど、その時になかなか自分でうまく日本の文化とかを向こうの人たちに、コロナやったのもあって伝えられへんっていうのすごい悔しさを感じて、もっと日本の文化とか違う文化を知らせたいなっていうので、ヨシっていうのに着目してこれでやりたいなって決めました。

―探究のやり方は多分今と変わってないと思うんですけど、アクションはどういうことをされましたか？

悩むよな？悩んでるよな今絶対。

―はい、めっちゃめっちゃ悩んでますね。

一応アクションは、自分はその時めっちゃめっちゃ大きい企業とコラボしてヨシの製品売り出しますとかもできたら良かったんやけど、どっちかって言ったら直接的なフェーズをこっちで起こした方が良いなと思って、自分はまずそういうのが使われていないっていう実態を知ってもらおうって思っ、WEBライターとして記事を書きましたね。

―え、すごいですね。

たまたま自分の時二〇二一年に発足したWEBメディアがあって、マガザレイクゴールズっていう琵琶湖版のSDGsを作ってみんなに発信しようみたいなのがあって、その時にMLGsについての記事を書くライターみたいなやつを募集してはって。たまたま上田さん（探究の先生）っていう山中先生というお仕事をしている人が探究に入っ

くれてて、ライターの育成講座やりますみたいなのを教えてくれて。ライター講座っていうのがいろいろ学んだ上で記事を書いて発信できるみたいなやつで、それでヨシの使い方とかについて記事書いたって感じ。でも全然直接的なアクションにつなげられへんかったのが後悔としてあるかなあ。

探究で上田さんとの出会いが一番自分的には大きくて、上田さんっていう人がたまたま社会課題とかを解決するような会社を作ってはって、その人が社会課題の解決を仕事にしているのがめっちゃよかったよく見えて、「自分もこういう人になりたい」っていうので、ひたすら上田さんを追いかけて回すような生活をして、今思えば本当に自分って何やってたんやろうって思うんやけど（笑）

それこそここに書いているかもしれないけど、自分の中で一番の裏目標として、上田さんがそういう大学生を集めてインターンみたいなのをしている会社に入るっていうのがあってんだけど、いろいろ巡り巡って大学一回生の九月ぐらいに山中先生の研究室の助手っていう名目で「僕たちと仕事しませんか」みたいな話が来て（笑）

―え、すごいですね

でも、結局友達がやったのはMLGsのPRやってんだけど（笑）あとさ国際協力でグラフィックレコーディングってやってない？やったかな？

―現代の国語でやりました。

グラレコ？

―はい。

あそうそう、なんかグラレコってどんな感じだった？

―グラレコってアレですよ？これはちよっと論文文用なんで書きすぎて

るんですけど、こんな感じです。(聞き手が画像を見せる)

国際協力でも多分グラレコやる……あ、やばいネタバレ(笑) そのグラレコっていうのが自分的に今すごく大きい軸になって、A Pの最後の授業で有志でグラレコをやったっていうのもつながって、大学入ってからグラレコをフリースミみたいな感じでしていたときもあったし、そこが勉強につながったっていうか、高校三年の時に出会えたっていうのも今すごいありがたいなって思う。自分の今の仕事の軸としてあるし、グラレコができるだけで頼ってもらえたりとか、例えば田中さん次この困ってる〇〇さんのところでグラレコしてほしいんだけど行ける? って言ってくれたりとか、ちょうどその時にやったグラレコがあるはずなんです……(画像を探す)

—私、なんかグラレコっていうものの自体をあんまり理解してないかもしれないです。

全然大丈夫(笑) その上田さんとの仕事関係でこういうグラレコみたいな感じでさせてもらったりとか、グラレコの一例書いてほしいとかそういう仕事が無い込んできたりするから、マジでこのグラレコっていうのはすごい自分の中でやっというてよかったなって思えること。これはね、近江八幡市の議会にちよっとお呼ばれた時のんだけど、こういう感じで(画像を見せてもらう)二〇五〇年の気候変動に対して近江八幡市で何ができるかっていうのを企業の人らとディスカッションしたのをまとめるやつなんだけど、たまたまそれを依頼してくれた人が自分と同じ学部先輩で。

—えー、そうなんです。

そうそう。いろんなお仕事につながるっていうのがすごい面白かったりする。

—すごいですね。

だからさ、ほんまに立守でさグラレコしない? みんな(笑) 本当にグラレコができますって言えたらさ、マジで声かけてもらえたりとか何かしら就職とかにも役立つ。

—え、なんかこれのできないってどっからなんですか?(笑)

え、わからへんけど自分はグラレコが好きやったからなんか有志でA Pのやつやったりとか。

—あ、そうなんです。

そう、だからできるできないってないと思う。だって、マジでグラフィッカーっていう仕事してる人に、それこそ国際協力で出会った人めちゃめちゃうまかったし。なんか本当に誰か課題解決とかでグラフィッカーとしてやってくれないのかな(笑)

—多分みんな現国で初めて知った感じやと思います。

うちも初めて現代の国語で知ってんだけど。

—ちよっどこの時期ですよ?

そう、ちよっど4月ぐらいやったよ。そう、でも最初そんな全然うまくできた覚えはないんやけど、意外とやってみたら楽しくなっちゃった(笑)

—でも実際今やってて、それが何かに繋がるとか考えたことなかったです。

繋がるらしいよって広めてほしい(笑) グラレコしたら意外とフリーランサーで仕事ができるかもしれないみたいな感じで(笑)

*

今

―将来の夢って決まっていらないですか？

今ちようど就活をして、結論から話すと私が就職するのがメーカー系の会社。グローバルのシェアが高いというか、諸々話すと長くなっちゃうんやけど。今のメーカーの中ですごい叶えたいというか、大きい夢として日本と世界の架け橋になるっていうのを目標にしています。部品とか、スマホに内蔵しているような物を作るところなんやけど、世界の売り上げがすごい高いところに行くから、日本の良さとか技術の高さとかっていうのを通じて、世界の人たちの当たり前を作りたいなっていうのを就職活動をする中ずっと意識してたから、自分の今の夢は日本のものづくりで世界中の人々の生活を豊かにすることかなあって思ってます。

―APでやったことが今に活かされてるなみたいなことってあったりしますか？

APが今に直接的につながったのが高校卒業してからのバイトとかで、他にもアイデア力とかAPでめっちゃめっちゃ論文とか書くやんか？そういうレジュメとかもマジで大学生で一番使うねんな。

―え、じゃあAPめんどくさとか言ってるけど、めっちゃやる意味あるんですね。

ぶっちゃけレジュメ書いてるから立守の人は大学一回生の基礎練習で強み活かせると、そういうのに慣れてたっていうのと、あとよく先生にロジックは？って聞かれて。ロジックっていうのは例えば「今日は暑いぞ」っていうのがあって「暑い」って言ってもさ色々あるやん？でも暑いっていうその論理的なベースになる、「今日の最高気温が三十六度です」みたいなのがロジックかな。自分の書いてる文の背景知識みたい

なのがつながるのをロジックっていうかな。それをすごい自分今、卒論とかをいろいろ書き始める時期なんやけど、そういうのでもすごい鍛えられてたっていうのがあって、常にそういうわからんこととかちよつと曖昧な表現とかもちゃんと自分でロジックを元にして考えられるようになって、論理的思考力がついたっていうのかな。それが一番大きいかな。

―やっぱあれなんですね。なんていうんですか、立守やからこそAPができて、それは他の学校ではできないことだからこそ余計そういうところで立守でやったことが際立ってくるんですね。

そう、余計際立つし、国際関係学部は、一回生の基礎演習っていうのが、そういうAPみたいなレジュメを作って発表みたいなやつやねんけど、そのときに自分らは最初みんな割とどんなことやるかわからんとか言ってるけど、自分らは自信持って、「はいできます」みたいな感じで行けた。それこそこういう経験をしたって他の立守の友達からも聞いたり。だから割となんかその自信になって、こういうなんかみんなをちよつと引く張れるというかそういうのができるんちゃうかなって思う。

―大学って、プレゼンとかも多いですよ？

多いし、多いからこそほんまに大学入って初めにつける力をみんなはもうすでに持ってるし、それを乗り越えてきてるから、逆に大学生になつて表情からダメってのが伝わってくる人がいても「ああそうですか」みたいなメンタルになれたし、アドバイスとして受け取れるみたいな？一回言われただけでへこまなくなったし、そういうレジュメの発表とかが苦にならへんくなったかな。

【感想】

今回の取材を通して、私自身もそうですが、田中優衣さんのように「立



右：語り手 田中優衣さん 左：木村香恋

命館守山高校に来たからこそ今の自分がある」「ここで新しい自分に出会えた」と感じている人は少なからずいると思います。改めて、この学校は生徒一人ひとりの成長のために、たくさんのチャンスを与えてくれる場所なのだと実感しました。さらに、他の学校にはないグローバルAPの授業を通して、高校生のうちから大学での学びに慣れ、将来を見据えた力を身につけられる点も、この学校ならではの魅力だと感じました。